

美術
司門
札荷タル
〇六話電

日正年 月 日正年 月 日正年 月 日正年 月

妖雲影を潜めて

八幡無風状態

依然嚴重なる警備中に數百のケーブルカー尙動かさず

八幡製鐵所の争議は九日朝に到りて漸く一時小康状態に達した、八日夜に開かれた友愛會、勞友會、協同の報告演説會も當局の干渉其効を奏してか豫想は全く実現されて入場者も極めて少く観客の気分は包まれて極めて無事平穩に散會した、外來巡查並に憲兵は引續き市内を警戒しつゝあつたが九日朝に到つて

職工側の 要求は次第に軟化し同日午前六時の交代時間には妥協全く成立して約二萬二千名の職工は繰々入場して作業に従事した。之と前後して八日深夜に東京中なりし白仁長官は八幡に歸着し七日より引續き會場中であつた幹部會に臨み種々協議の後争議勃發以來之に盡瘁したる有力者を訪して一々謝辭を述べ直に製鐵所に歸りて今後の處置に就て頻りに協議を重ねたつゝある。此處に於て争議中

白仁長官の今後の處

断如何に依ては或は再び勸諭を來すかも知れないと観測されてある因に製鐵所側の報告に依れば三日間に亘る損害は約六萬圓から十萬圓の間であらうと稱せられてある (九日八幡特電)

浴鑛爐の 作業に従事

したる三千名の職工に九日朝復職したる一萬二千名を加ふる時は一萬五千名の職工が現在夫々業に就いてゐる際である、斯の如くして八幡製鐵所を包みたる妖雲は一時全く影を潜めた形であるが、事態は未だ必ずしも鎮靜に歸したと言ふ事は出来ない。現に數百を算へられたつゝあるケーブルカーは今に